

シンポジウム

「超高齢社会のなかで地域包括ケアを問いなおす」

■日時：**2015年8月30日**（日）13:00～17:00

■会場：大阪大学中之島センター 講義室 507（定員 72名）
大阪市北区中之島 4-3-53 <http://www.onc.osaka-u.ac.jp/>

■シンポジスト（各 60 分の報告・発表の後、全体討論）

1) 才田 靖人（東神戸病院・医療ソーシャルワーカー）

「**神戸市東部（東灘区）における地域包括ケアシステム構築に向けた現状と課題 ～MSW の立場より～**」

2) 堀田 裕（京都市粟田地域包括支援センター・センター長）

山田 元子（新道学区社会福祉協議会・会長）

「**新道学区からみる地域包括ケアへの課題**」

3) 西原 承浩（きむ医療連携クリニック・在宅療養支援診療所医師）

久保 美穂子（きむ医療連携クリニック・在宅支援ナース）

「**看取りの文化を取り戻すために**」

司会：浜渦 辰二（大阪大学教授）

進行：林 道也（〈ケア〉を考える会・代表）



■シンポジウムの趣旨： 「高齢者の地方移住を」— 先日（6月6日）の新聞で、有識者らでつくる民間研究機関「日本創成会議」がこう提言したという。今後 10 年で「東京圏」の介護需要が 45%増えて施設と人材の不足が深刻になり、国が進めている住み慣れた地域で在宅医療や介護サービスを使って高齢者が暮らす体制づくりも「東京圏では難しい」から、というのです。しかし、「東京圏では難しい」ことが、「関西圏では難しくない」のでしょうか。「縁もゆかりもない地方に介護、医療が充実しているから移住しなさい」というのは、高齢者の尊厳を無視したものではありませんか。移住先は結局、地方の高齢者施設になるのでしょうか。「在宅医療・介護あんしん 2012」で、「施設中心の医療・介護から、可能な限り、住み慣れた生活の場において必要な医療・介護サービスが受けられ、安心して自分らしい生活を実現できる社会を目指す」と謳い、その具体的な姿として「地域包括ケアシステム」の図を描いてきたのに、あれは「絵に描いた餅」になるのでしょうか。いま、「地域包括ケア」は、うまく行っている地域もあれば、うまく行っていない地域もあるようです。しかし、10 年後はどうなるのでしょうか。「地域包括ケア」を問いなおして、何が問題なのか、皆さんと一緒に考えたいと思います。



■参加費：無料

■お問い合わせ・参加申し込み……参加予約が必要です
はがき又はメールでお申し込みください

（氏名、TEL、FAX、メールアドレスを明記）

定員になり次第締め切ります。

満席となりお断りする場合にはのみ、連絡いたします。

〒560-8532 豊中市待兼山町 1 番 5 号

大阪大学文学研究科 浜渦研究室 気付

「ケアの臨床哲学」研究会 宛

E-mail : yoshinokumano@gmail.com

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~cpshama/clph-care/clph-care.htm>



共催：・患者のウェル・リビングを考える会（神戸） http://www.geocities.jp/well_living_cafe/

・〈ケア〉を考える会（京都／岡山） <http://care-kyoto.jimdo.com/>

・科研プロジェクト「定常型社会におけるケアとそのシステム」